



TITLE:

超曲面上のある代数的サイクルについて

AUTHOR(S):

青木, 昇

CITATION:

青木, 昇. 超曲面上のある代数的サイクルについて. 代数幾何学シンポジウム記録 1987, 1987: 261-282

ISSUE DATE:

1987

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/212661>

RIGHT:

超曲面上の代数的サイクルについて

立教大・理 青木 昇

§0. Introduction

X を体 k 上 定義された \mathbb{P}^{n+1} 内の非特異超曲面とし、 $f=0$ をその定義方程式とする。 n が偶数のとき $n=2r$ 、奇数のとき $n=2r-1$ とおくとき、 f が次の分解を持つ場合を考える：

$$(0.1) \quad f = f_0 g_0 + f_1 g_1 + \cdots + f_r g_r$$

このとき、 Y を $f_0 = f_1 = \cdots = f_r = 0$ で定義される \mathbb{P}^{n+1} 内の完全交叉とすると、(0.1) より Y は X の $\text{codim } r$ の subvariety であることがわかる。 Y の "primitive part" を Y_0 で表わすとき、次の問題を考える。

(1) $n=2r$ のとき、 Y_0 の cohomology class $c(Y_0) \in H^n(X, \mathbb{Q})$ は nonzero か？

(2) $n=2r-1$ のとき、 Y_0 の Abel-Jacobi map による像 $\alpha(Y_0) \in J^r(X)_{\mathbb{Q}}$ は nonzero か？

ここで $J^r(X)$ は、Griffiths の中間 Jacobi 多様体である。 $n=2r$ のとき、 $[A], [A-S]$ において X が Fermat 多様体のときに、

特別な Y について調べられている。更に、 Y が \mathbb{P}^{n+1} 内の linear space の場合は f が (0.1) の分解を持つことに注意しておく。

本論では、まず、§2 において X を射影空間内の完全交又として問題 (1) が肯定的に成り立つことを示す。次に §3 において超曲面 X に対し、§1 の結果を精密化する。最後に §4 において問題 (2) について考える。

§1. Preliminaries

本論では簡単のため $k = \mathbb{C}$ としておくが、§2, §3 の結果は任意の体 k 上で成り立つ。

X を \mathbb{C} 上の n 次元代数多様体とし、 $Z^p(X)$ ($0 \leq p \leq n$) を codim p の subvariety のなす free abel 群とする。更に Chow 群を $CH^p(X) = Z^p(X)/\text{rat. eq.}$ で表わす。この時、 $CH^p(X)$ から $H^{2p}(X, \mathbb{Q})$ への cycle map c がある：

$$c : CH^p(X) \longrightarrow H^{2p}(X, \mathbb{Q})$$

この kernel を $CH^p(X)_{\text{hom}}$ と表わす。更に $CH^p(X)$ の元で、代数的に 0 と同値なもの全体を $CH^p(X)_{\text{alg}}$ と表わす。明らかに $CH^p(X)_{\text{alg}} \subset CH^p(X)_{\text{hom}}$ である。Griffiths 群を次で定義する：

$$\text{Griff}^p(X) = CH^p(X)_{\text{hom}} / CH^p(X)_{\text{alg}}.$$

$p = 1$ ならば $\text{Griff}^1(X) = 0$ であるが $p \geq 2$ ならば、一般に、 $\text{Griff}^p(X) \neq 0$ である。更に $\text{Griff}^2(X)$ が有限生成でない例も知られている (cf. [C], [Sch]). しかし、一般的な結果はあまり知られていない。

さ2. Griffiths の中間 Jacobian 多様体 $J^p(X)$ は次で定義される complex torus である (cf. [G1], [G2]).

$$J^p(X) = (F^{n-p+1} H^{2n-2p+1}(X, \mathbb{C}))^* / H_{2n-2p+1}(X, \mathbb{Z})$$

このとき、 $CH^p(X)_{\text{hom}}$ から $J^p(X) \rightarrow \text{Abel-Jacobi map } \alpha$ が次のようにして与えられる:

$$\begin{array}{ccc} \alpha: CH^p(X)_{\text{hom}} & \longrightarrow & J^p(X) \\ \downarrow \omega & \longmapsto & \text{"}\omega \mapsto \int_{\Gamma} \omega\text{"} \quad (\omega \in F^{n-p+1} H^{2n-2p+1}) \end{array}$$

ここで、 Γ は $\partial\Gamma = \mathbb{Z}$ なる $(2n-2p+1)$ -chain. である。 $CH^p(X)_{\text{alg}}$ の α による像 $\in J^p_a(X)$ とおくと、 $J^p_a(X)$ は Abel 多様体になることが知られている。更に、 $J^p_h(X) = \alpha(CH^p(X)_{\text{hom}})$ とおくと、 $J^p_h(X)/J^p_a(X)$ は countable であることが知られている。

(See also [S2], [S3].)

§2 Complete intersections in a projective space.

この節では $n = 2r$ としておく。 \mathbb{P}^{n+1} 内の超曲面を少し一般化して、 X は \mathbb{P}^{n+s} の中の $\text{codim } s (\geq 1)$ の完全交叉であるとしておく。その multidegree を (m_1, \dots, m_s) とする。更に、 $Y \in X$ の $\text{codim } r$ の subvariety で、 Y は \mathbb{P}^{n+s} の中で $\text{codim } r+s$ の完全交叉になっているものを考える。そして、その multidegree を (d_1, \dots, d_{r+s}) とする。但し、自明な場合を除くため、次のことを仮定しておく。

$$(2.1) \quad \begin{aligned} d_i &\leq m_j \quad (\forall i, j) \\ \max\{d_i\} &< \max\{m_j\} \end{aligned}$$

Y の primitive part を Y_0 とおく。即ち、 $H \in X$ の hyperplane section とするとき

$$Y_0 = Y - \frac{\deg Y}{\deg X} H^r = Y - \frac{d_1 \cdots d_{r+s}}{m_1 \cdots m_s} H^r \in \text{CH}^r(X)_{\mathbb{Q}}$$

とおく。この節の目標は次の定理の証明である。

Theorem 2-1 Y_0 の self-intersection number は次で計算される：

$\Delta_i = \prod_{j \neq i} (m_i - m_j)$ とおくと、

$$(-1)^r (Y_0^2) = d_1 \cdots d_{r+s} \sum_{i=1}^s \frac{\prod_{j=1}^{r+s} (m_i - d_j)}{\Delta_i m_i}.$$

この値は正であり、従って特に、 $c(Y_0) \neq 0$ 。

Th.2-1 の右辺は. $m_i \neq m_j$ ($i \neq j$) でないという意味がないが.
 m_1, \dots, m_s を変数と見ると右辺の式は多項式になることが.
 わかるので. その式に m_1, \dots, m_s の値を代入したと思うこと
 にすると. 常に成り立つ式である.

(証明) normal bundle の exact sequence

$$(2.2) \quad 0 \rightarrow N_{Y/X} \rightarrow N_{Y/\mathbb{P}^{r+s}} \xrightarrow{\varphi} N_{X/\mathbb{P}^{r+s}|Y} \rightarrow 0$$

において. Chern polynomial を考えよ.

$$C_t(N_{Y/X}) = C_t(N_{Y/\mathbb{P}^{r+s}}) \cdot C_t(N_{X/\mathbb{P}^{r+s}|Y})^{-1}$$

が成り立つ. ここで X, Y は \mathbb{P}^{r+s} 内の完全交叉だから.

$$N_{Y/\mathbb{P}^{r+s}} \cong \bigoplus_{j=1}^{r+s} \mathcal{O}_Y(d_j),$$

$$N_{X/\mathbb{P}^{r+s}|Y} \cong \bigoplus_{i=1}^s \mathcal{O}_X(m_i)|_Y = \bigoplus_{i=1}^s \mathcal{O}_Y(m_i).$$

従って.

$$\begin{aligned} C_t(N_{Y/X}) &= C_t(\bigoplus \mathcal{O}_Y(d_j)) \cdot C_t(\bigoplus \mathcal{O}_Y(m_i))^{-1} \\ &= \prod_j (1 + d_j t) \cdot \prod_i (1 + m_i t)^{-1} \end{aligned}$$

ここで. \mathcal{S}_ℓ ($0 \leq \ell \leq r+s$) を d_1, \dots, d_{r+s} の ℓ 次の基本対称
 式とすると. $\prod_j (1 + d_j t) = \sum_{\ell=0}^{r+s} \mathcal{S}_\ell t^\ell$. 又.

$$\prod_i (1 + m_i t)^{-1} = \sum_{i=1}^s \frac{m_i^{s-1}}{\Delta_i} \frac{1}{1 + m_i t} = \sum_{k \geq 0} (-1)^k \left(\sum_i \frac{m_i^{s-1+k}}{\Delta_i} \right) t^k$$

これから

$$\begin{aligned} C_t(N_{Y/X}) &= \left(\sum_l d_l t^l \right) \left(\sum_{k \geq 0} (-1)^k \left(\sum_i \frac{m_i^{s-1+k}}{\Delta_i} \right) t^k \right) \\ &= \sum_{k \geq 0} \left(\sum_{l=0}^k (-1)^{k-l} d_l \sum_i \frac{m_i^{s-1+k-l}}{\Delta_i} \right) t^k \end{aligned}$$

$$\therefore C_r(N_{Y/X}) = \sum_{l=0}^r (-1)^{r-l} d_l \sum_i \frac{m_i^{r+s-1-l}}{\Delta_i}$$

ここで次のことが知られている。

Lemma 2-2

$$\sum_{i=1}^s \frac{m_i^v}{\Delta_i} = \begin{cases} 0 & \dots \dots 0 \leq v \leq s-2 \text{ のとき} \\ (-1)^{r-1} \sum_{(e_1, \dots, e_s)} m_1^{e_1} \dots m_s^{e_s} & \dots \dots v \geq s-1 \text{ のとき かつ} \\ & e_i \geq 0, \sum e_i = v-s+1 \\ & \text{かつ } (e_1, \dots, e_s) \in \mathcal{E} \text{ 動く.} \\ & v < 0 \text{ のとき かつ} \\ & e_i \leq -1, \sum e_i = v-s+1 \\ & \text{かつ } (e_1, \dots, e_s) \in \mathcal{E} \text{ 動く.} \end{cases}$$

$$\begin{aligned} \therefore C_r(N_{Y/X}) &= \sum_{l=0}^{r+s} (-1)^{r-l} d_l \sum_i \frac{m_i^{r+s-1-l}}{\Delta_i} - (-1)^s d_{r+s} \sum_i \frac{1}{\Delta_i m_i} \\ &= \sum_i \frac{(-1)^r}{\Delta_i m_i} \sum_{l=0}^{r+s} (-1)^l d_l m_i^{r+s-l} - (-1)^{s-1} \frac{d_{r+s}}{m_1 \dots m_s} \\ &= (-1)^r \sum_i \frac{1}{\Delta_i m_i} \prod_{j=1}^{r+s} (m_i - d_j) + \frac{d_1 \dots d_{r+s}}{m_1 \dots m_s} \end{aligned}$$

従って $i: Y \hookrightarrow X$ とすると

$$\begin{aligned} (Y^2) &= \deg i_* (C_r(N_{Y/X})) \\ &= d_1 \dots d_{r+s} \left\{ (-1)^r \sum_i \frac{1}{\Delta_i m_i} \prod_j (m_i - d_j) + \frac{d_1 \dots d_{r+s}}{m_1 \dots m_s} \right\} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\therefore (Y_0^2) &= \left(Y - \frac{d_1 \cdots d_{r+s}}{m_1 \cdots m_s} H^r \right)^2 \\
&= (Y^2) - 2 \cdot \frac{d_1 \cdots d_{r+s}}{m_1 \cdots m_s} (Y \cdot H^r) + \left(\frac{d_1 \cdots d_{r+s}}{m_1 \cdots m_s} \right)^2 (H^r)^2 \\
&= (-1)^r d_1 \cdots d_{r+s} \sum_i \frac{1}{\Delta_i m_i} \prod_j (m_i - d_j)
\end{aligned}$$

この値が正になるということの以下の証明は R. Coleman による。

Prop. 2-3 実数 d_1, \dots, d_μ を fix して。

$$G(t_1, \dots, t_s) = \sum_{i=1}^s \frac{g(t_i)}{\Delta_i},$$

とおく、ここで $g(t) = \frac{1}{s} \prod_{j=1}^s (t - d_j)$, $\Delta_i = \prod_{j \neq i} (t_i - t_j)$ 。このとき、 $G(t_1, \dots, t_s)$ は t_1, \dots, t_s の多項式であるが、実数 m_1, \dots, m_s で条件 (2.1) をみたすものに対して $G(m_1, \dots, m_s) > 0$ 。

(証明) まず、次が成り立つことに注意する。

$$(2.3) \quad G(t_1, \dots, t_s) = \det \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & \cdots & t_s \\ \vdots & & \vdots \\ t_1^{s-2} & \cdots & t_s^{s-2} \\ g(t_1) & \cdots & g(t_s) \end{pmatrix} \bigg/ \det \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & \cdots & t_s \\ \vdots & & \vdots \\ t_1^{s-1} & \cdots & t_s^{s-1} \end{pmatrix}$$

実際、

$$\frac{1}{\Delta_i} = (-1)^{s-i} \det \begin{pmatrix} 1 & \cdots & \overset{i}{\downarrow} & \cdots & 1 \\ t_1 & \cdots & & & t_s \\ \vdots & & & & \vdots \\ t_1^{s-2} & \cdots & & & t_s^{s-2} \end{pmatrix} \bigg/ \det \begin{pmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & \cdots & t_s \\ \vdots & & \vdots \\ t_1^{s-1} & \cdots & t_s^{s-1} \end{pmatrix}$$

であるから

$$\sum_i \frac{g(t_i)}{\Delta_i} = \sum_i (-1)^{s-i} g(t_i) \det \begin{bmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ \vdots & & \vdots \\ t_i & \cdots & t_i^{s-1} \end{bmatrix} / \det \begin{bmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ \vdots & & \vdots \\ t_1^{s-1} & \cdots & t_s^{s-1} \end{bmatrix}$$

この右辺が求める式の右辺である。さて、次のLemmaを考へる。

Lemma 2-4 ([L], Chap 9, Lemma 2.6)

$\varphi \in C^{(s-1)}(\mathbb{R})$, $t_1 < \cdots < t_s$ ($t_i \in \mathbb{R}$) とすると、 $t_1 < \tau < t_s$ なる τ で次を満たすものが存在する。

$$\frac{\varphi^{(s-1)}(\tau)}{(s-1)!} = \det \begin{bmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & \cdots & t_s \\ \vdots & & \vdots \\ \varphi(t_1) & \cdots & \varphi(t_s) \end{bmatrix} / \det \begin{bmatrix} 1 & \cdots & 1 \\ \vdots & & \vdots \\ t_1^{s-1} & \cdots & t_s^{s-1} \end{bmatrix}$$

このLemmaと(2.3)より $G(t_1, \dots, t_s) = \frac{g^{(s-1)}(\tau)}{(s-1)!}$ とみたす $\tau \in (t_1, t_s)$ があることがわかる。ところが、 $t > \max\{d_j\}$ ならば常に $g^{(s-1)}(t) > 0$ となることが容易に示せる。従って、 $\max\{d_j\} < t_1 < \cdots < t_s$ ならば $G(t_1, \dots, t_s) > 0$ が言えた。極限を考へることにより、条件(2.1)の下で $G(m_1, \dots, m_s) > 0$ となることを見るのは容易である。(Prop. 2-3の証明終り)

以上のことから Theorem 2-1が証明された。Q.E.D.

以上が Colemanによる証明であるが、その後、別証が見つかったのを述べる。

exact seq. (2.2) により $\varphi: N_{Y/\mathbb{P}^{r+s}} \rightarrow N_{X/\mathbb{P}^{r+s}|_Y}$ は、ある

$\tilde{\varphi}: \bigoplus \mathcal{O}_X(d_i) \rightarrow \bigoplus \mathcal{O}_X(m_i)$ に対し $\tilde{\varphi}|_Y = \varphi$ と可成る。

$Z \subset Z''$

$$Y^\# = \{x \in X \mid \tilde{\varphi}_x \text{ は surj. 可成る}\}$$

と可成る $Y^\#$ は X の subvariety である。 $y \in Y$ に対し $\tilde{\varphi}_y$

$\tilde{\varphi}_y = \varphi_y$ は surj. 可成るから $Y \cap Y^\# = \emptyset$ である。

Claim: $\text{codim}_X Y^\# = r$.

☺ X の定義方程式 $f_1 = f_2 = \dots = f_s = 0$, Y の定義方程式

$g_1 = \dots = g_{r+s} = 0$ と可成る

$$\begin{pmatrix} f_1 \\ \vdots \\ f_s \end{pmatrix} = (h_{ij}) \begin{pmatrix} g_1 \\ \vdots \\ g_{r+s} \end{pmatrix}, \quad (h_{ij}): s \times (r+s) \text{ 行列.}$$

である。このとき明らかに

$$Y^\# = \{x \in X \mid \text{rank}(h_{ij}(x)) \leq s-1\}$$

$Z \subset Z''$.

$$W = \{x \in \mathbb{P}^{r+s} \mid \text{rank}(h_{ij}(x)) \leq s-1\}$$

と可成る。 $\text{codim}_{\mathbb{P}^{r+s}} W \leq r+1$ である ($\mathcal{A}[F]$)。よって

$\text{codim}_X Y^\# \leq r+1$. 更に

$$Y^\# \subset W \cap \{f_1 = \dots = f_{s-1} = 0\} = W \cap \{f_1 = \dots = f_s = 0\} = Y^\#$$

であるから $\text{codim}_X Y^\# \leq r$. 一方 $\text{codim}_X Y^\# \geq r$ は明らかであるから

$\text{codim}_X Y^\# = r$.

さ 2. Hodge index theorem (cf. [W]) より.

$$(-1)^r(Y_0^2) > 0 \iff c(Y_0) \neq 0$$

$$\iff c(Y) \neq \frac{\deg Y}{\deg X} c(H)^r.$$

もし、 $c(Y) = \frac{\deg Y}{\deg X} c(H)^r$ とすると $(Y, Y^\#) > 0$. と 3 が

$Y \wedge Y^\# = 0$ であるから $(Y, Y^\#) = 0$. 従って、 $c(Y) \neq \frac{\deg Y}{\deg X} c(H)^r$ である

といえる。従って、 $(-1)^r(Y_0^2) > 0$ である。(証明おわり).

Remark 2-5 $s=1$ (i.e. $X \subset \mathbb{P}^{n+1}$: 超曲面) のときは、 $\deg Y^\# = \prod_{j=1}^{r+1} (m-d_j)$ であるから Thm 2-1 は次のようになる.

$$(-1)^r(Y_0^2) = \frac{\deg Y \cdot \deg Y^\#}{\deg X}$$

これが正となるのは当然である。一般の場合、このように書き表わせるのだろうか。

§3 Algebraic cycles on hypersurfaces ($n=\text{even}$)

この節では、 X は \mathbb{P}^{n+1} の中の次数 m の非特異超曲面を表わすものとする。自然数 $r \in$ 、 n が偶数のとき $n=2r$ 、 n が奇数のとき $n=2r-1$ とするものとして定める。 $Y \in X$ の subvar. で \mathbb{P}^{n+1} の中で完全交又になっているものとする。但し、 $\text{codim}_X Y = r$ なるものだけを考える。 X の定義方程式 $\in f$ 、 Y の定義方程式 $\in f_0, \dots, f_r$ とすると、 $Y \subset X$ より

$$f = \sum_{i=0}^r f_{i0} \cdots f_{i\nu_i} \quad (f_{i0} = f_i \quad i=0, \dots, r)$$

となっている。この分解を fix して考える。

$$A = \{(a_0, \dots, a_r) \mid a_i \in \mathbb{Z}, 0 \leq a_i \leq \nu_i \quad (i=0, \dots, r)\}$$

とおき、各 $\alpha = (a_0, \dots, a_r) \in A$ に対して、 $f_0 a_0 = \dots = f_r a_r = 0$ で定義される \mathbb{P}^{n+1} 内の完全交又 $\in Y_\alpha$ で表わすことにすると、 Y_α は X の $\text{codim } r$ の alg. cycle になっている。

以下、 $n=2r$ の場合を考える。 $\deg f_{ij} = d_{ij}$ とおき、 $d\alpha = \deg Y_\alpha = \sum_i d_i a_i$ とおく。又、 $\alpha = (a_0, \dots, a_r)$, $\beta = (b_0, \dots, b_r) \in A$ に対し、

$$I(\alpha, \beta) = \{i \mid a_i = b_i\}$$

とおく。このとき、次が成り立つ。

Theorem 3-1 $\alpha, \beta \in A$ に対して.

$$(Y_\alpha, Y_\beta) = \frac{d_\alpha d_\beta}{m} \left\{ 1 - (-1)^{\#I(\alpha, \beta)} \prod_{i \in I(\alpha, \beta)} \left(\frac{m}{d_{i\alpha_i}} - 1 \right) \right\}$$

各 Y_α の primitive part $\in Y'_\alpha$ とおく。即ち、 $Y'_\alpha = Y_\alpha - \frac{d_\alpha}{m} H^r$
 $\in CH^r(X)_\mathbb{Q}$ 。更に、

$$A' = \{(a_0, \dots, a_r) \in A \mid 1 \leq a_i \leq \nu_i \ (\forall i)\}$$

とおく。このとき、次のことが Th'm 3-1 から 導かれる。

Cor. 3-2 交点行列 $M = (c(-1)^r(Y'_\alpha, Y'_\beta))_{\alpha, \beta \in A'}$ は正定値である。従って、 $\{c(H)^r\} \cup \{c(Y'_\alpha) \mid \alpha \in A'\}$ は $H^n(X, \mathbb{Q})$ の中で独立である。特に、 $\rho^{(r)}(X) \geq 1 + \nu_0 \nu_1 \cdots \nu_r$ 。ここで、 $\rho^{(r)}(X)$ は X の中間次元の Picard 数を表わす。

(証明) Th'm 3-1 より次のことがわかる： $0 \leq i \leq r$ に対して、

$$P_i = \begin{pmatrix} d_{i1} & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & d_{i\nu_i} \end{pmatrix}, \quad M_i = P_i \begin{pmatrix} m_{d_{i1}-1} & -1 & \cdots & -1 \\ & \ddots & & \\ -1 & & \ddots & \\ & & & m_{d_{i\nu_i}-1} \end{pmatrix} P_i$$

とおくと、

$$M = M_0 \otimes M_1 \otimes \cdots \otimes M_r$$

である。従って次の Lemma より各 M_i が正定値であることがわ

かゝるので、 M は正定値である。Q.E.D.

Lemma 3-3 $a_1, \dots, a_n > 0$, $\frac{1}{a_1} + \dots + \frac{1}{a_n} < 1$ ならば、行列

$$\begin{pmatrix} a_1 & -1 & \dots & -1 \\ -1 & a_2 & & \\ \vdots & & \ddots & \\ -1 & & & a_{n-1} \end{pmatrix}$$
 は正定値である。

(Thm 3-1の証明) $\#I(\alpha, \beta)$ に関する帰納法で証明する。

まず、 $\#I(\alpha, \beta) = 0$ のとき、この時、 $Y_\beta \subset Y_\alpha^*$ であり、

$Y_\alpha \cap Y_\alpha^* = \emptyset$ 故に $Y_\alpha \cap Y_\beta = \emptyset$ 。従って、 $(Y_\alpha, Y_\beta) = 0$ となり
 $0 = 0$ 正しい。

次に、 $\#I(\alpha, \beta) = k+1 > 0$ とし、 $\#I \leq k$ ならば定理は正しい
と仮定する。 $\alpha = (a_0, \dots, a_r)$, $\beta = (b_0, \dots, b_r)$ としたとき、適
当に成分を並べかえて、 $a_i = b_i$ ($0 \leq i \leq k$) としよう。そこ
で、 $B = \{(a_0, \dots, a_{k-1}, b, a_{k+1}, \dots, a_r) \in A \mid 0 \leq b \leq a_k\}$ とおく
と、

$$Y_\alpha + \sum_{\substack{r \in B \\ r \neq \alpha}} Y_r = \sum_{r \in B} Y_r \quad \sim_{\text{rot. eq.}} \quad \frac{d\alpha}{da_k} H^r$$

$$\therefore (Y_\alpha, Y_\beta) + \sum_{\substack{r \in B \\ r \neq \alpha}} (Y_r, Y_\beta) = \frac{d\alpha}{da_k} (H^r, Y_\beta) = \frac{d\alpha d\beta}{da_k}$$

ここで $\#I(r, \beta) = k$ ($r \in B, r \neq \alpha$) 故に帰納法の仮定により、

$$(Y_r, Y_\beta) = \frac{d\alpha d\beta}{m} \left\{ 1 - (-1)^k \prod_{i=0}^{k-1} \left(\frac{m}{da_i} - 1 \right) \right\}$$

$$\begin{aligned}
\therefore \sum_{\substack{\gamma \in B \\ \gamma \neq \alpha}} (Y_\gamma, Y_\beta) &= \frac{d_\beta}{m} \left(\sum_{\substack{\gamma \in B \\ \gamma \neq \alpha}} d_\gamma \right) \left\{ 1 - (-1)^k \prod_{i=0}^{k-1} \left(\frac{m}{d_{ia_i}} - 1 \right) \right\} \\
&= \frac{d_\beta}{m} \cdot d_\alpha \left(\frac{m}{d_{\alpha a_k}} - 1 \right) \left\{ 1 - (-1)^k \prod_{i=0}^{k-1} \left(\frac{m}{d_{ia_i}} - 1 \right) \right\} \\
&= \frac{d_\alpha d_\beta}{m} \left\{ \frac{m}{d_{\alpha a_k}} - 1 - (-1)^k \cdot \prod_{i=0}^{k-1} \left(\frac{m}{d_{ia_i}} - 1 \right) \right\}
\end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
\therefore (Y_\alpha, Y_\beta) &= \frac{d_\alpha d_\beta}{d_{\alpha a_k}} - \sum_{\substack{\gamma \in B \\ \gamma \neq \alpha}} (Y_\gamma, Y_\beta) \\
&= \frac{d_\alpha d_\beta}{d_{\alpha a_k}} - \frac{d_\alpha d_\beta}{m} \left\{ \frac{m}{d_{\alpha a_k}} - 1 - (-1)^k \prod_{i=0}^{k-1} \left(\frac{m}{d_{ia_i}} - 1 \right) \right\} \\
&= \frac{d_\alpha d_\beta}{m} \left\{ 1 - (-1)^{k+1} \prod_{i=0}^{k-1} \left(\frac{m}{d_{ia_i}} - 1 \right) \right\}.
\end{aligned}$$

よって、 $\#I(\alpha, \beta) = k+1$ のときも定理は正しい。 Q.E.D.

Cor 3-3 Y_α, Y_β は linear space (i.e. $d_\alpha = d_\beta = 1$) のとき

$$(Y_\alpha, Y_\beta) = \frac{1}{m} \left\{ 1 - (1-m)^{\dim Y_\alpha \cap Y_\beta + 1} \right\}$$

(証明) $\#I(\alpha, \beta) = \dim Y_\alpha \cap Y_\beta + 1$ であることを示す。但し、

$Y_\alpha \cap Y_\beta = \emptyset$ のときは $\dim Y_\alpha \cap Y_\beta = -1$ としておく。 Q.E.D.

§4. Algebraic cycles on hypersurfaces (n=odd)

まず、次のような一般的な状況で考える (cf. [Z1], [Z2]).

\bar{X} : smooth proj. var., $\dim \bar{X} = n$

\bar{S} : smooth proj. curve.

$\bar{f} : \bar{X} \rightarrow \bar{S}$: projective morphism,
smooth over a Zariski open set $S \subset \bar{S}$

$$\begin{array}{ccc} X & \hookrightarrow & \bar{X} \\ f \downarrow & & \downarrow \bar{f} \\ S & \hookrightarrow & \bar{S} \end{array}$$

$$\Sigma = \bar{S} - S.$$

\bar{X}_s : normal crossing divisor と決まっている. ($\forall s \in \Sigma$)

$\pi : J^p(X/S) \rightarrow S$: p-th intermediate Jacobian の family

$\mathcal{F}^p = R^i f_* F^p \Omega_{X/S}^\bullet$: Hodge filtration bundle.

$\mathcal{G}^p = J^p(X/S) \rightarrow S$ の hol. section の sheaf.

このとき, exact seq.

$$0 \rightarrow R^{2p-1} f_* \mathbb{Z}/\text{tor.} \rightarrow \mathcal{F}^{p*} \rightarrow \mathcal{G}^p \rightarrow 0$$

より long exact seq.

$$\cdots \rightarrow H^0(S, \mathcal{F}^p) \rightarrow H^0(S, \mathcal{G}^p) \xrightarrow{\sigma} H^1(S, R^{2p-1} f_* \mathbb{Z}/\text{tor.}) \rightarrow \cdots$$

が得られる. $H^0(S, \mathcal{G}^p)$ の元 $\nu \in$ normal function という. さて,

$$\mathcal{H}^p(X/S) = \{ Z \in \mathcal{Z}^p(\bar{X}) \mid Z \cdot X_s \stackrel{\text{hom.}}{\sim} 0 \quad \forall s \in S \}$$

とおく. $Z \in \mathcal{H}^p(X/S)$ に対し, Z に付随する normal function

$\nu_Z \in H^0(S, \mathcal{G}^p)$ が次のように定義される:

$$\nu_Z(s) = \alpha(Z, X_s) \in J^p(X_s), \quad s \in S$$

このとき、次の可換図式がある。(cf. [Z1], [Z2], [K])

$$\begin{array}{ccc}
 \mathbb{Z}^p(\bar{X}) \subset \oplus^p(X/S) & \xrightarrow{\text{"Abel-Jacobi"}} & H^0(S, \mathcal{F}^p) \\
 \downarrow \text{cycle map } c & & \downarrow \sigma \\
 H^{2p}(\bar{X}, \mathbb{Q}) & & H^1(S, R^{2p-1}\bar{f}_* \mathbb{Q}) \\
 \cup & & \downarrow \wr \\
 \text{Prim}_{\Sigma}^{2p}(\bar{X}, \mathbb{Q}) & \xrightarrow{\text{Griff}} & H^1(\bar{S}, R^{2p-1}\bar{f}_* \mathbb{Q})
 \end{array}$$

ここで

$$\text{Prim}_{\Sigma}^{2p}(\bar{X}, \mathbb{Q}) = \ker \left\{ \text{Prim}^{2p}(\bar{X}, \mathbb{Q}) \rightarrow \bigoplus_{s \in \Sigma} H^{2p}(\bar{X}_s, \mathbb{Q}) \right\}$$

Theorem 4-1 上の状況に於いて、Griffiths map (の Prim_{Σ} の部分) $\text{Griff} : \text{Prim}_{\Sigma}^{2p}(\bar{X}, \mathbb{Q}) \rightarrow H^1(\bar{S}, R^{2p-1}\bar{f}_* \mathbb{Q})$

は injective である。

(証明) local invariant cycle theorem ([Z2]) より

$R^i \bar{f}_* \mathbb{Q} \rightarrow j_* R^i f_* \mathbb{Q}$ は surjective である。 $\Sigma \subset \mathbb{Z}$ 。

$$K^n = \ker \{ R^n \bar{f}_* \mathbb{Q} \rightarrow j_* R^n f_* \mathbb{Q} \}$$

とすると、 K^n は Σ に support をもつ。よって、 $H^0(\bar{S}, K^n) \subset \bigoplus_{s \in \Sigma} H^n(\bar{X}_s, \mathbb{Q})$ 。よって、Leray spectral seq

$$E_2^{p,q} = H^p(\bar{S}, R^q \bar{f}_* \mathbb{Q}) \Rightarrow H^{p+q}(\bar{X}, \mathbb{Q})$$

は E_2 で退化するから $E_2^{n-1} = \text{gr}_L^1 H^n(\bar{X}, \mathbb{Q})$. $\therefore Z^n L$ は Leray filtration.

$$L^1 H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) = \text{Ker} \{ H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) \rightarrow H^0(\bar{S}, R^n \bar{f}_* \mathbb{Q}) \}$$

とあり.

$$\begin{array}{ccccccc} 0 \rightarrow H^0(\bar{S}, K^n) & \rightarrow & H^0(\bar{S}, R^n \bar{f}_* \mathbb{Q}) & \rightarrow & H^0(\bar{S}, j_* R^n f_* \mathbb{Q}) & \rightarrow & 0 \\ & \cap & & & \uparrow & & \\ & \oplus_{s \in \Sigma} H^n(\bar{X}_s, \mathbb{Q}) & & & H^0(S, R^n f_* \mathbb{Q}) & & \\ & & & & \uparrow & & \\ & & & & H^n(X_t, \mathbb{Q}) & \forall t \in S \end{array}$$

とあるから.

$$\begin{aligned} L^1 H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) &\supset \text{Ker} \{ H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) \rightarrow H^n(X_t, \mathbb{Q}) \oplus \oplus_{s \in \Sigma} H^n(\bar{X}_s, \mathbb{Q}) \} \\ &= \text{Prim}_{\Sigma}^n(\bar{X}, \mathbb{Q}). \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{果て. } L^2 H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) &\cong E_2^{2, n-2} = H^2(\bar{S}, R^{n-2} \bar{f}_* \mathbb{Q}) \\ &\cong H^2(\bar{S}, j_* R^{n-2} f_* \mathbb{Q}) \\ &\cong H^2(S, R^{n-2} f_* \mathbb{Q}) \\ &\cong H^{n-2}(X_t, \mathbb{Q}) \quad \forall t \in S \end{aligned}$$

とあり. $H^{n-2}(X_t, \mathbb{Q}) \hookrightarrow H^n(\bar{X}, \mathbb{Q})$ は Gysin map による inclusion とある. 以上により.

$$H^1(\bar{S}, R^{n-1} \bar{f}_* \mathbb{Q}) = \frac{\text{Ker} \{ H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) \rightarrow H^0(\bar{S}, R^n \bar{f}_* \mathbb{Q}) \}}{\text{Im} \{ H^{n-2}(X_t, \mathbb{Q}) \rightarrow H^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) \}} \hookrightarrow \text{Prim}_{\Sigma}^n(\bar{X}, \mathbb{Q})$$

この埋め込み $\text{Prim}_{\Sigma}^n(\bar{X}, \mathbb{Q}) \hookrightarrow H^1(\bar{S}, R^{n-1} \bar{f}_* \mathbb{Q})$ は Griffiths map の制限である. Q.E.D.

さて、少し特別な場合を考えよう。 $V, W \in \text{smooth. proj. var.}$ で $\dim V = \dim W - 1$ とするもの、 Δ 次 の 仮定 を みたすものとする:

W 上に hyperplane section の pencil $\{W_t\}$ が与えてあり、
generic な $t \in \mathbb{P}^1$ に対し W_t は V と同型 ($\varphi_t: W_t \xrightarrow{\sim} V$ とする)、
 Δ 次 の pencil の 軸 を 表わすとき、

$$\mathcal{H}_\Delta^p(W) = \left\{ Z \in \mathcal{Z}^p(W) \mid \begin{array}{l} \text{supp } Z \not\subset W_t \ (\forall t \in \mathbb{P}^1) \\ \text{supp } Z \text{ は } \Delta \text{ と transverse (=交わる)} \\ Z \cdot W_t \underset{\text{hom}}{\sim} 0 \text{ in } W_t \ (\forall t \in \mathbb{P}^1) \end{array} \right\}$$

となく。更に、合成写像

$$\begin{array}{ccccc} \mathcal{H}_\Delta^p(W) & \xrightarrow{\cdot W_t} & CH^p(W_t)_{\text{hom}} & \xrightarrow[\simeq]{\varphi_{t*}} & CH^p(V)_{\text{hom}} \\ \downarrow \psi & & \downarrow \psi & & \downarrow \psi \\ Z & \longmapsto & Z \cdot W_t & \longmapsto & \varphi_t(Z \cdot W_t) \end{array}$$

を ψ_t で表わす。このとき、次が成り立つ。

Prop. 4-2 generic な $t \in \mathbb{P}^1$ に対し

$$\text{Ker}(\alpha \circ \psi_t) = \{ Z \in \mathcal{H}_\Delta^p(W) \mid c(Z) = 0 \text{ in } H^{2p}(W, \mathbb{Q}) \}.$$

従って、この右辺を $\mathcal{H}_\Delta^p(W)_{\text{hom}}$ とおけば、

$$\psi_t(\mathcal{H}_\Delta^p(W)/\mathcal{H}_\Delta^p(W)_{\text{hom}}) \xhookrightarrow{\alpha} J^p(V).$$

(証明) Δ を中心とする W の blow-up を $\pi: \hat{W} \rightarrow W$ とする。

このとき、次の可換図式がある。

$$\begin{array}{ccccc}
\mathbb{H}_\Delta^p(W) & \xrightarrow{\pi^*} & \mathbb{H}^p(\tilde{W}/P') & \xrightarrow{A-J} & H^0(P', \mathcal{I}^p) \\
\downarrow c & & \downarrow c & & \downarrow \sigma \\
H^{2p}(W, \mathbb{Q}) & \xrightarrow{\pi^*} & H^{2p}(\tilde{W}, \mathbb{Q}) & & H^1(P', R^{2p-1}f_* \mathbb{Q}) \\
& & \cup & \nearrow \text{Griff} & \\
& & \text{Prim}_\Sigma^{2p}(\tilde{W}, \mathbb{Q}) & &
\end{array}$$

$\Sigma = \Sigma''$

$$\begin{array}{ccc}
& & \tilde{W} \\
& \nearrow \pi & \\
W & & \\
\downarrow f & & \\
P' & &
\end{array}$$
 といった。従って, generic な $t \in P'$ に対し,

$$u \circ \psi_t : \mathbb{H}_\Delta^p(W) \rightarrow J^p(V)$$

の kernel は $\mathbb{H}_\Delta^p(W)_{\text{hom}}$ であることがわかる。 Q.E.D.

Cor 4-3 $V \subset \mathbb{P}^{n+1}$ は $f=0$ で定義される超曲面 Σ'' . V の
 次数 $= m$, 次元 $= n = 2r-1$ とする。更に f は 次の条件を満
 たすとする:

$$(i) \quad f = h(x_0, \dots, x_n) + x_{n+1}^m = \sum_{i=0}^r f_{i0} \dots f_{ir} \quad \text{なる分解} \exists \text{ かつ,}$$

$$(ii) \quad f_{ij} = g(x_0, \dots, x_n, u x_{n+1}, v x_{n+1}), \quad u^m + v^m = 1$$

$$\text{for some } g \in \mathbb{C}[x_0, \dots, x_{n+1}, x_{n+2}].$$

$$(iii) \quad x_{n+1} \notin (f_{0a_0}, \dots, f_{ra_r}) \quad \forall (a_0, \dots, a_r) \in A.$$

このとき, $\{\psi_\alpha \mid \alpha \in A'\}$ は Abel-Jacobi map α Σ'' injective へ
 うつさける。

(証明) Prop. 4-2 において。

$$W = \{t(x_0, \dots, x_n) + x_{n+1}^m + x_{n+2}^m = 0\} \subset \mathbb{P}^{n+2}$$

$$W_t = \{t + (1+t^m)x_{n+1}^m = 0\} \quad (x_{n+2} = tx_{n+1})$$

とおく. このとき, $Y_{\alpha'} (\alpha \in A')$ は $\psi_t(\oplus_{\Delta}^F(W)/\oplus_{\Delta}^F(W)_{\text{hom}})$ の中で独立である (Thm 3-1). 従って Prop. 4-2 より上の主張が得られる. Q.E.D.

Remark 4-4 Cor 4-3 は Inductive Structure (cf [K-5], [S1]) を用いても証明できる. 更に, Cor 4-3 における V 上の cycle は代数的に同値でないと思われる. これが示されるのは $\text{rank Griff}^r(V) \geq r_0 r_1 \dots r_r$ となることを言える.

References

- [A] Aoki, N.: Some new algebraic cycles on Fermat varieties
J. Math. Soc. Japan, 39 (1987), 385-396.
- [A-S] Aoki, N. and Shioda, T.: Generators of the Néron-Severi
group of a Fermat surface. Progress in Math. 35, Birkhäuser.
- [C] Clemens, H.: Homological equivalence, modulo algebraic
equivalence, is not finitely generated. Publ. Math. I.H.E.S.
58 (1983), 19-38.
- [G1] Griffiths, P.: Some results on algebraic cycles on algebraic
manifolds. In "Alg. Geom., Proc. Tata Conf.". 1968
Oxford Univ. Press (1969), 93-191.
- [G2] ——— : On the periods of certain rational integrals
I. II, Ann. Math. 90 (1969), 460-541.
- [K] Katz, N.: Le théorème de Griffiths, Exp. XX, SGA 7 II,
S.L.N. 340 (1973), 341-362.
- [K-S] Katsura, T. and Shioda, T.: On Fermat varieties,
Tohoku Math. J. 31 (1979), 97-115.
- [L] Lang, S.: Fundamentals of Diophantine Geometry.
Springer-Verlag, New-York (1983).

- [Sch] Schoen, C. : Complex multiplication cycles on elliptic modular threefolds, *Duke Math. J.* 53 (1986), 771-794.
- [S1] Shioda, T. : The Hodge conjecture for Fermat varieties, *Math. Ann.* 245 (1979), 175-184.
- [S2] —, A note on a theorem of Griffiths on the Abel-Jacobi map, *Inv. Math.* 82 (1985), 461-465.
- [S3] —, Algebraic cycles on hypersurfaces in \mathbb{P}^N . *Adv. Studies in Pure Math.* 10 (1987), 717-732
- [W] Weil, A. : *Variétés Kähleriennes*, Hermann, Paris (1958)
- [Z1] Zucker, S. : Intermediate Jacobians and normal functions, in "Topics transcendental algebraic geometry" *Ann. Math. Study* 106. (1984), 259-267.
- [Z2] —, : Hodge theory with degenerating coefficients : L_2 cohomology in the Poincaré metric. *Ann. Math.* 109 (1979), 415-476